

東京学芸大学アート・アスレチック教育センターの試み

－音楽を通じた地域連携活動を中心に－

東京学芸大学 音楽・演劇講座教授
アート・アスレチック教育センター長
中地 雅之

はじめに

大学と地域社会との連携は、近年一段と重要視されるようになってきている。本稿では、2024年4月に東京学芸大学に設置された、アート・アスレチック教育センターCAA AE（Center for Applied Arts and Athletics Education、以下CAA AE）の活動を中心に、本学の音楽を通じた社会連携活動に関して報告したい¹。CAA AEは、全国で初めて大学に設置された、芸術とスポーツに関する教育センターであり、本学の人材・施設・設備などを活用して、主に下記の2つの活動に取り組んでいる。

- （1）地域と連携した芸術・スポーツ活動の推進と持続的な活動の仕組みづくり
- （2）初等・中等教育における芸術・スポーツが関連した教科横断的教育パッケージの開発

以上を通じて、持続可能な社会の創り手の育成と、子どもと地域社会のウェルビーイングの向上を支えることを、本センターは長期的な目的としている。

本学は、教育単科大学であるが、音楽・美術・工芸・書道・演劇・スポーツといった、芸術とスポーツの多様な専攻が開設されており、各領域の教員・学生などの人材や施設・備品などの環境を有している²。これらを活用して、学内外の芸術・スポーツに関連する活動を活性化するために、様々なプロジェクトを主催し、また各種事業の共催・協賛・後援を行なっている。

CAA AEは、活動のモットーとして、次の3つのキーワードを掲げている。

「あそぶ **Play**」あそび＝Playは、芸術とスポーツ、さらに学びの原点であり、また人生の目的にもなりうるものである。CAA AEは、これらの根底にあるあそびを大事にしている。

「つなぐ **Connect**」芸術とスポーツは、人々をつなぐことができる。CAA AEは様々な活動によって、大学・地域・企業をつないでいくことを目指している。

「越える **Cross Over**」様々な分野・領域、大学・地域・企業といった枠を超えて、CAA AEは多様な活動を推進している。

1. 学内演奏会の主催・協賛・後援

本センターが取り組んでいる音楽を通じた社会連携活動として、まず学内の演奏会を通じた地域との連携の促進があげられる。本学は、中規模のホール（約 300~450 席）を保有しており、学生の学習の成果の発表の場として様々な演奏会を実施している。主なものとして、オーケストラ・吹奏楽・合唱・オペラなどがあげられる。CAAAE はそれらを、予算面・広報面からバックアップし、学外からの来場を促進している。コロナ禍で、学内の演奏会が中止されたり、学外からの来場が禁止されたりした時期が 3 年ほど続いたが、CAAAE では演奏会を通じた地域との交流の一層の活性化を目指している。チラシの作成や地域への配布・回覧、HP や SNS を通じた発信をサポートし、いずれの演奏会も来場者数が増加傾向にある。

また、学内の HIVE 棟におけるコンサートも企画・実施している。HIVE 棟とは、本学に建設された「3 割しか完成していない、何に使うのか、また今後どのようなになるのかがあらかじめ考えられていないオープンエンドの建物」であり、教育のイノベーションを起こすことを目指した施設である。一般参加で前年の建築のベスト 1 を選ぶ「みんなの建築大賞 2024」（主催：みんなの建築大賞推薦委員会、協力：文化庁）において、「大賞」を受賞している。

<https://www.u-gakugei.ac.jp/pickup-news/2024/02/hive2024.html>

CAAAE では、この HIVE 棟において、子どもも参加できるコンサートやワークショップを実施している。また、音の波を感じたり共鳴の仕組みを体験したりする、理科の実験の要素を取り入れた、領域を越えたコンサートも試みている。さらに HIVE 棟に、美術科の学生が装飾を施したストリート・ピアノを設置し、演奏会やワークショップに活用すると共に、子どもや市民が自由に使用できるような場づくりも行なっている。この試みは、SNS などネット上においてストリート・ピアノファンの間でも話題となった。



▲ HIVE 棟に設置されたストリート・ピアノとコンサートの様子

2. 大学の研究・特別講座等の学外への発信

本学で実施されている、研究活動の外部への開放・発信に関しても、CAAAE は予算・広報などで支援を行なっている。合唱特別講座では、合唱曲を作曲している著名な作曲家を招聘し、自作の合唱曲について、本学の音楽専攻の学生による演奏を指導して頂いている。2024 年度はなかにしあかね氏を、2025 年度は本学の卒業生でもある田中達也氏にお越しいただいた。後者の講座は、カワイ出版からの後援を頂いて実施しており、学外の合唱愛好家も聴講できるように発信している。また、一般と学生を対象とした、教員による合唱や歌曲の公開講座の支援も行なっている。

さらに、海外の研究者・演奏家による公開講座の支援も行なっている。本学の協定校であるザルツブルク・モーツアルテウム大学からバーバラ・ドブレツベルガー教授を招聘し、2年に渡り音楽分析講座を実施した。オペラ《ヘンゼルとグレーテル》、図形楽譜など、CAAAE のプロジェクトと関連した内容を取り上げて頂き、学生の実演も交えながら、一般にも講座を開放している。また、バイエルン放送交響楽団主席フルート奏者のヘリンク・ヴィーゼ氏を招聘した、フルートの模範演奏と公開レッスンの開催も支援している。



▲ 横山和彦名誉教授による合唱講座の様子



▲ モーツアルテウム大学ドブレツベルガー教授による音楽分析講座の様子



▲ オペラ《ヘンデルとグレーテル》公演の様子

3. 地域の子どもの対象にしたコンサート・ワークショップの実施

既に HIVE 棟で子どもの参加型コンサートを実施している旨を述べたが、継続的な参加によるワークショップと子どもを対象とした大規模なコンサートも CAAAE は実施・支援している。

絵本の読み聞かせとコンサートを融合した『ジャム!!』は、これまでに本学が実施してこなかった、子どもを主たる対象としたもので、乳幼児から保護者・一般まで 200 名以上の来場を得た。長時間静かにすることが難しい、低年齢の子どもを対象にしたコンサートは、予想以上に社会からの需要があることを改めて認識した。2 回目の本年は、小学生を対象とした 3 回のワークショップを行い、コンサートにも出演するという、教育活動と演奏会を融合させた企画を実施した。これには、鈴木楽器製作所から楽器提供などの協力を得ている。

また、オペラ《ヘンゼルとグレーテル》のプロジェクトでは、児童合唱団を公募してワークショップを行った上で、当日の舞台を教員・学生と共に創りあげた。本プロジェクトは、二期会 BLOC ポケットオペラとの共催によるもので、合唱と演技のワークショップを子どもたちが 10 回実施した上で公演を実施した。子どもの指導には、学生も携わり、子どもに対する音楽指導を積む経験にもなっ



▲ファミリーコンサートのフライヤー



▲ボディー・パーカッションで子どもたちが演奏に参加している様子

ている。加えて、本学の敷地内に開校した辻調理師専門学校 東京の協力により、「お菓子づくりワークショップ」を実施し、さらに舞台上にプロジェクト・マッピングで投影する「お菓子の家」のミニチュアのなどの製作も依頼した。さらに、本学初となる学生によるファミリー・コンサートの開催を支援し、子どもが参加できる内容を取り入れて実施したところ、ホールがほぼ満席となった。ここからも、子どもを対象としたコンサートは、地域からの需要が高いことが改めて認識された。今後 CAAAE でも、地域の子どもの参加できる音楽活動に力を入れて行きたいと考えている。

4. 地域の活動・海外における演奏活動への協力

CAAAE は学内のみならず、学外での音楽教育活動も実施・協力している。近隣の公民館から、CAAAE の専任教員への子どもを対象とした演奏会の依頼があり、学生と共に子ども向けの参加型の演奏会を実施している。また、地域の小学校やホールにおけるイベント・ワークショップへの協力なども行っている。さらに、学生による、近隣の小学校・中学校での演奏会の後援も行っている。いずれも大学のアウト・リーチ活動として位置付けられるものであるが、音楽教育活動を通じた地域との交流活動として、今後一層重要な役割を果たすものと考えている。

一方で、海外における教員・学生の演奏活動に対する支援も行なっている。2025 年 3 月には、モーツァルテウム大学で本学の教員と学生が 2 回の演奏会を実施したが、その実施や派遣に際しても支援を行った。この様な支援は音楽に限らず、韓国の美術展やベトナムやマレーシアでのスポーツ指導などに対しても同様に行なっており、国際的な教員と学生の活動にも CAAAE は協力している。2024 年には、逆に協定校であるメキシコのチアパス州立芸術科学大学からの教員を受け入れ、演奏会とワークショップを行なった。



▲近隣の小学校での学生による音楽特別講座（訪問演奏）の様子（CUPS とリコーダー・アンサンブル）

5. 学会・研究会・研修会等の共催・協賛

CAAAE は、学内で行われる学会・研究会・研修会の支援も行なっている。これまでに音楽関係で協賛した団体は、東洋音楽学会（研究発表大会）、音楽教育史学会（大会）、日本オルフ音楽教育研究会（例会）、福建省芸術教育協会（音楽教育研修会）などである。国内の学会・研究会は、主として学生の運営協力による支援を行っている。また福建省芸術教育協会の研修会では、会場・楽器の提供と講師の派遣などの協力を行なった。

また、本学書道科同窓会における、音楽を含めた芸術教育に関するシンポジウムの共催、本学音楽科同窓会「ふれあいコンサート」の共催も実施している。いずれの催しも学外からの一般参加を得ている。

6. 音楽以外の教育研究支援活動

CAAAE の活動は、音楽に限らず、美術・スポーツの分野にもわたっている。その多様な活動の一部を最後に紹介したい。

スポーツに関しては、CAAAE のオープニング・セレモニーにおいて、本学卒業生であり、パリ・オリンピックで女子柔道 48kg 級金メダルを獲得し、同階級で世界選手権 3 連覇を成しとげた角田夏実氏を招聘し、氏自身初となる講演会を実施した。これには、近隣の市民も参加できるように広報し、多くの来場者を得た。また、近隣 3 市（小金井市・国分寺市・小平市）から小学 4 年生の参加を募り、通常と異なるメンバーとチームを組んで試合を行う「サッカー・フェスティバル」への実施協力も行なっている。

美術と書道の分野では、本学初となる合同展覧会を実施した。学外からの展覧会への来場はもちろんのこと、近隣の子どもたちを対象とした各種ワークショップや研究室ツアーなども企画し、市民との一層の交流を図る機会を設けた。さらに、「書道パフォーマンス」やピアノの即興とのコラボレーションによる「アクション・ペインティング」など、芸術の領域を越えた表現活動も行なった。他にも、本学卒業生で絵本『だるまさん』の作者としてしられる、かがくいひろし氏をテーマとしたシンポジウムを八王子夢美術館の協力を得て実施するなど、美術館とコラボレーションした企画にも取り組んでいる。

おわりに

本センターは、開設されてまだ 2 年が経過していないが、音楽を含めた芸術・スポーツに関する様々な活動を実施・支援している。昨年度に限っても 30 ほどの事業を主催・共催・協賛・後援し、約 3000 名に及ぶ学内外からの参加者を得た。芸術もスポーツも、人々や地域社会をつなぐ大きな力を持っている。学校教育では「主要でない」という扱いを受けることもあるが、いわゆる「5 教科」に関する大学の専門分野を通じて、これだけの人数との地域交流を図ることは容易ではないだろう。

いずれの活動においても、予算の裏付けが必要になるため、参加費・入場料・寄付金などの制度を新たに構築している段階である。本学がこれまでに取り組んで来なかった部分も多く、その制度設計や規約の改訂にも適宜取り組んでいる。今後の課題としては、部活動の地域移行に応じた大学としてのサポート、また大学施設の社会教育への活用の検討などに取り組んでいきたいと考えている。

註

1. 本センターの活動に関しては、ホームページをご参照頂ければ幸いである。<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~caaae24/>
活動の詳細は、下記を参照。中地雅之・監修・岡田理佐子他・編集(2025)『東京学芸大学アート・アスレチック教育センターCAAAE 研究活動報告書 Vol.1 2024 (令和 6 年度)』(東京学芸大学アート・アスレチック教育センター刊) 下記の URL から閲覧できる。
https://drive.google.com/file/d/1Pt1x_tO8jEGROmQTYVRV2491gSbHUiFh/view?usp=drivesdk
2. 本学の芸術・スポーツ科学系に教育・研究に関しては、下記をご参照頂きたい。<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~tguaas/>
3. HIVE 棟に関しては、下記の HP をご参照いただきたい。<https://www.u-gakugei.ac.jp/pickup-news/2024/02/hive2024.html>
1~3 までの URL、いずれも最終閲覧日 2025 年 12 月 5 日。